

No.78

吉祥寺南町  
五丁目にて

この街が好きだから

## 武蔵野スケッチ物語

絵と文・大須賀一雄

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。



この作品は、昨年秋の風情が感じられる景色を描きたくて、あちこち探して見つけた吉祥寺南町の風景を描いたものである。

写生中、時折、絵をのぞき見た人から、「水彩画ですか？」と聞かれることがあるが、いつも「そうです」と答えている。しかし、私は自分の作品を「ペン彩画」と呼び、普通の水彩画と区別している。水彩画は一般的に、鉛筆で描いた下絵を水彩絵の具で彩色して仕上げる画法である。一方、ペン彩画は、始めに鉛筆で下絵を描き、その後ペンで下絵をなぞるように作画してから鉛筆の線をすべて消し去り、ペン画状態にして絵の具で彩色する画法で、私は三十年以上もこの方法で絵を描いてきた。

私のペン彩画の特徴は、すべて下絵をペンで描くわけではなく、雲や影、または水に映った物の形状はペンを使わず、絵の具で表現していることである。もしペン彩画に興味のある方がおられたら、一度トライされてみてはいかがだろうか。

おおす かかず お 水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は「あなたの街の駅物語」(日貿出版社)、『スケッチお手本帖』(素朴社)、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』(旅もようスケッチ会)ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。